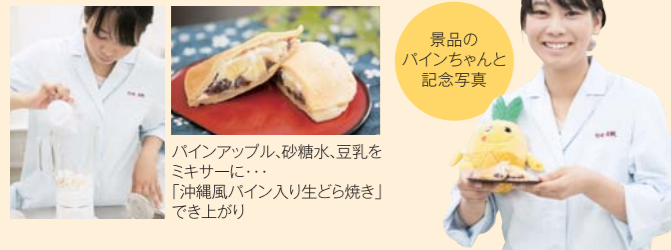


わが家の自慢料理コンテストで「最優秀賞」

平成25年度(第24回)「国産リンアップル缶詰を使ったわが家の自慢料理コンテスト」において、管理栄養学科2年竹内志帆さんの「沖縄風パン入り生どら焼き」が最優秀作品に選ばれました。全国から581点もの応募があった中で、最優秀作品は3点。「皮の黒砂糖とあんの中に入っているリンアップルとあんこが上手く調和し、豆腐と豆乳が上手く溶け込んで、全体的にさわやかな生どら焼きになっています」という審査員のコメントとともに、レシピが日本リンアップル缶詰協会のホームページで紹介されています。(http://www.pine.or.jp/news.html)

竹内さんは、平成24年2月に行われた第3回「犬山 豆腐料理メニューコンテスト」スイーツの部でも2位に入賞。その時の経験が今回の「最優秀賞」につながったようです。「賞品の沖縄2泊3日ペアの旅はお母さんと行きますので、親孝行ができると思います」と笑顔で語っていました。



景品の
パンちゃん
と
記念写真

リンアップル、砂糖水、豆乳を
ミキサーに…
「沖縄風パン入り生どら焼き」
でき上がり

学生が奏でる図書館ミニコンサート

7月17日(水)昼過ぎの30分間、図書館1階ホールにおいて第2回ピアノ演奏会が開かれ、優雅なメロディが図書館を清涼感に包みました。今回の演奏者は、法学部2年中山真歩さん、経営学部2年高場剛さん、法学部1年倉内佳祐さんの3名です。

今後ミニコンサート(不定期)を開催する予定です。図書館からのお知らせにご注目ください。また演奏者の募集も行っています。



演奏者(左から倉内さん、中山さん、高場さん)

図書館でレコードコンサートを開催

『レクイエムの系譜』

11月12日(火)に真空管アンプ(クォード)とLPプレイヤー(ガード)、スピーカー(JBL)を使用したレコードコンサートが図書館で行なわれました。

曲目はオケゲム「死者のためのミサ曲」、モーツァルト「レクイエム K.626」、フォーレ「レクイエム Op.48」、プリテン「シンフォニア・ダ・レクイエム Op.20」など。教育保育学科安藤悦夫教授による音楽解説を聞きながら、素晴らしいクラシックの音色を楽しみました。

VOICE 貴重な音に出会えました

「主よ、永遠の安息を彼らに…」

トーンアームを下ろすと、ぽつぽつと小さく弾ける音とともに、朗々とした歌声が聴こえてきました。敬虔な祈りを声の波に託したオケゲム、死の悲しみを壮大に描いたモーツァルト、天国への喜びを謳歌したフォーレ、宗教的意味を離れ、独自のレクイエムを表情豊かに創り上げたプリテン。レクイエムは暗く難解な感じがしますが、それぞれの楽曲に色彩が感じられました。貴重な音に出会えたことをとても嬉しく思っています。

法学部1年 倉内佳祐さん 青森県立青森東高等学校出身



静寂の中ではじまったレコードコンサート

平成26(2014)年度入試日程 ※選考方法については、ホームページまたは「平成26(2014)年度入学試験要項」にてご確認ください。

■ 大学・短期大学部

入試区分	エントリー期間(消印有効)	第一次審査日	審査結果発表日	正式出願期間(消印有効)	第二次審査	合格発表日
AO	V期	平成26年2月10日(月)~2月21日(金)	3月1日(土)	3月3日(月)	平成26年3月4日(火)~3月6日(木)	出願書類の審査 3月13日(木)

入試区分	出願期間	試験日	合格発表日	試験会場
学力I期*	A日程	平成26年1月 6日(月)~1月20日(月)	1月25日(土) 1月26日(日)	犬山、名駅 犬山、名駅、津、浜松、松本、福井
	B日程	平成26年1月 6日(月)~1月28日(火)	2月 5日(水)	犬山、名駅
	C日程	平成26年2月 4日(火)~2月17日(月)	2月22日(土)	犬山、名駅、津、浜松、松本、福井
学力II期*	平成26年2月12日(水)~3月 4日(火)	3月10日(月)	3月13日(木)	犬山、名駅
センター試験 利用*	I期	平成26年1月 6日(月)~1月31日(金)	2月 8日(土)	/
	II期	平成26年2月 4日(火)~2月20日(木)	2月28日(金)	
	III期	平成26年2月17日(月)~3月 6日(木)	3月13日(木)	

*試験の高得点者は、入学金および毎年の学納金(授業料、施設整備費、維持費、教育充実費)が免除されます。

学校法人市邨学園教育研究充実寄附金のお祝いについて

学校法人市邨学園では、少子化の進行などにより今後より一層厳しさを増す私学を取り巻く環境を踏まえ、100年積み上げて参りました教育・研究活動の益々の振興充実をはかるべく、「学校法人市邨学園教育研究充実寄附金」(任意)を募集いたしております。

趣旨にご賛同いただき、ご寄附をお申し出いただけます場合は、次の連絡先までご請求いただけますようよろしくお願いいたします。なお、お手続きにつきご不明の点などございましたら、同じく次の連絡先までご連絡いただけますようお願い申し上げます。

なお、本法人は、これまでの特定公益増進法人の認定に加え、新たに個人からのご寄附に対して所得税の税額控除の対象となる証明を受けました。これにより、学校法人に対する寄附金につき、これまでより多くの所得税の還付を受けることも可能となりますことを申し添えます。

寄附金に関する照会・連絡先

学校法人市邨学園 法人本部(寄附金担当)
TEL 052-853-0047(代表)

MEIKEI

あなたのご意見をお聞かせください

「名経大通信」Vol.47について、ご意見やご感想などございましたら、企画広報室(右記連絡先)までお聞かせください。

MEIKEI

名経大通信
2014.1.15 Vol.47
名古屋経済大学
名古屋経済大学短期大学部



MEIKEI 名経大通信 Vol.47 | 平成26年1月15日発行 | 名古屋経済大学・短期大学部 〒484-8604 犬山市内久保6-1-1 TEL 0568-67-0511(代) http://www.nagoya-ku.ac.jp/ | 企画広報室 TEL 0568-67-0624 FAX 0568-67-0724 | ●本誌掲載の定率・寄附・イベントなどの詳細は、本誌・配布資料をご覧ください。

新年明けまして おめでとうございます



すえおか ひろあき
学校法人 市邨学園 理事長・学園長 末岡 熙章

学生諸君ならびに保護者の皆様、そして卒業生各位をはじめ皆様方には、お揃いで新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年、日本経済はアベノミクス効果で株価が上昇し、円安など景気は回復に向い、経済指標が好転して参りました。さらに、2020年のオリンピック開催が東京に決定し、日本にも久しぶりに明るい兆しが見えて参りました。

一方では、ボーダレスの時代を導いていくべき人材を養成するわが国の大学は、世界の流れと、わが国の各方面のパラダイムシフトの中で、かつてないほどの競争的環境の中に置かれております。

大学は、18才人口の激減期に突入して久しく、ますます拍車をかけられた形で競争と評価にさらされる状況に置かれております。本学においても、数年来これらの問題に対する対応が真剣に語られており、今後、教育・研究の質を高め、同時に学生諸君の満足度を高める取り組みと方向性を示し、建学の精神に基づく個性豊かな大学を目指して、学校運営に心がけていかなければならないと考えております。

社会が複雑かつ急激な変化の中、大学には幅広い視野から物事を捉える力や、的確な判断を下すことのできる人材の育成が一層期待され、大学の学部教育は教養教育と専門基礎教育を基本として、特に教養教育のあり方を見直し、再構築することが求められております。本学では、こうした社会の変化に対応でき得る人間としての在り方や、生き方など現実を正しく理解する力の涵養など、新しい時代に求められる教養教育に重点をおき取り組んで参ります。そして本学に学ぶ学生諸君に対し、学ぶ意欲や目的意識を持たせ、質の高い教育を提供していきたいと考えます。

本学は、法学部、経済学部、経営学部など社会科学分野を中心に、人間生活科学部(教育保育学科、管理栄養学科)、短期大学部、付置機関である臨床栄養センター、情報センター、図書館など、特化した分野の教育研究を地域社会との密着性を強化し、身近な大学としての機能を発揮していきたいと思っております。

私学は、学生、教職員、保護者、そして卒業生によって構成される一種の大きなファミリーであり、この組織こそ私学にとっては最も大きなエネルギー源となるものであります。本学のすべての構成員が団結力を発揮し、社会的価値観やニーズの変化に即応しながら、大学の個性化を図り、魅力的な大学を構築することに喜びを感じる年でありたいと思っております。最後に卒業生諸氏を含め、ファミリーとして、大きな役割を担っている構成員の皆さんのより一層のご協力と、ご支援をお願いすると共に、ご多幸をお祈りして新年のご挨拶といたします。

「学ぶ力」を育てる教育を さらに進めます



ささき ゆうた
名古屋経済大学・短期大学部 学長 佐々木 雄太

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。年頭に当たって、皆さんとともに魅力ある大学づくりを進める決意を新たにいたしましたと思います。

今、大学のあり方がさまざまに問われています。大学生の学力低下、大学卒業生の社会人基礎力の不足が問題にされ、高等教育の質の保証と向上が求められています。また、これまでの学力偏差値偏重の大学入試が粗上りのせられ、人間力の重視が唱えられています。多くの大学が悩みながら教育改革、入試改革に取り組むつつあります。

本学にとっても、昨年は教育改革をめぐる試行錯誤の1年でした。私たちは、「目の前の学生たちにしっかり向き合う」ことを旨として、教育カリキュラムの見直しを進めました。授業科目を精査し、学生がそれぞれの専門領域の基礎力をしっかり身につけられるようカリキュラム体系の整備を行いました。学生が主体的な学びの体験を通して「学ぶ力・考える力」をつけることを期待して、「体験型探究」というフィールドワークを含めた授業を進めることにしました。これまでにないこれらの取り組みは、教員の教育力の向上を必要とすることから、教育方法の改善のための教員研修にも取り組むことにしました。

答が出るのはまだまだ先のことだと思っております。今年の課題は、昨年の取り組みの反省と改善の上に、これをさらに進めることにほかありません。

いまひとつ、私たちが重視しなければならない課題があります。近年、大学や高校を卒業した若者の約3割が、アルバイトや派遣など非正規雇用で甘んじることを余儀なくされております。このような事態は、当事者である若者にとって不幸であるだけでなく、日本の将来にとって由々しき問題です。若者たちがそれぞれの職を通し、職場を通して社会にしっかり根を下ろすことなくして、日本社会の健全な将来はないからです。私たちは、本学の学生が「たしかな力を備えた社会人」として社会に根を下ろすことができるように、キャリア形成の支援に力を入れなければならないと考えています。

世界が大きく変化する時代に対応できる有為な人材の養成に、本年も邁進したいと考えます。皆さんのご理解とご協力をお願い申し上げます。

くりすつがお 栗栖継鹿尾地区のまちづくりを考える

共発的な地域づくりに、名経大も貢献します！

地域には、慌ただしい時間の流れの中で忘れかけられたさまざまな固有の資源があります。地域に暮らす人々がそれを改めて発見し活用することは、これまでとは違った暮らしの豊かさを再認識し、地域に人々のつながりと賑わい、活力を取り戻す良い機会となります。

しかし、そのような取り組みは、地域の中に暮らす人々だけで自発的に継続することは難しく、外部の人々との交流による「共発」的な活動の中で、新しい発見や取り組みの発展が可能となるでしょう。

一方、本学では「学び」を大学内で完結することなく、地域住民・組織・企業の方々との交流や協働を通じてより深く学び、貢献し、「大学の地域社会化」を進めることを重視して地域連携の取り組みを進めてきており、地域連携センターは窓口やコーディネーターとして活動しています。

犬山市栗栖継鹿尾地区と名経大との協働の取り組みは、地域住民と大学のそれぞれのニーズがうまくマッチングした貴重なものです。取り組みをさらに発展させるとともに、この経験を生かして多くの連携の場を創りだし、より魅力的な地域づくりに貢献していきたいと考えています。

(地域連携センター副センター長 経済学部准教授 横平龍宏)



黒大豆の収穫



郷土の味「イモもち」



そば打ち体験



鮎は串に刺し、炭火で焼きました。天然物の鮎は身が締まりとても美味でした。

燻製チキンやウインナーは、その場で燻製されたものがふるまわれました。



彩りを考えて「おいしく」食材を並べる



地元で採れた野菜をたっぷり使用したピザは、大きな石窯で焼かれました。



野菜がたっぷりの豚汁



地域の方との食事会

VOICE 犬山市の「地域の食材をみんなで食べる交流会」に参加して



10月20日(日)、栗栖地区の施設YHAラフティングで、「地域の食材をみんなで食べる交流会」が開催されました。テーマは、みんなで栗栖継鹿尾地区のまちづくりについて考えるというもので、犬山市役所の職員・栗栖継鹿尾地区の住民・名古屋経済大学の学生が参加しました。第1回目となった今回のメニューは、鮎の塩焼き・栗ご飯・枝豆・焼き芋・朝取野菜・燻製チキンなどで、枝豆は犬山商工会議所・特産品開発実行委員会の大豆生産プロジェクトが生産したものが提供されました。このプロジェクトは、地域の特産品である大豆を使ったさまざまな加工品を生産し、地場産業として農業を再生させるために動き出しています。

今後も今回のような交流会を開催し、具体的なアクションを起こすきっかけづくりをしたいという思いから、市職員、住民、学生から活発な意見が交わられていました。経済学部4年 立木健一さん 三重県立久居農林高等学校出身

1 通学路竹林の整備

「通学路竹林の整備」プロジェクトが実施された場所は、本学南門から田県神社前駅に向かって徒歩約3分の距離にある竹林です。竹林の所有者の了解を得

て、本学出入りの造園業者である三五郎園の平出信幸さんの指導のもと、作業を行いました。作業の手順は、竹の切りたおし、木製のくい打ち、竹材の切りそろえ、針金とシュロ縄を用いた柵の組み立てといった内容です。

なかなかの重労働ではあったが、藪蚊の襲来に難儀しながらも黙々と作業をこなす学生の姿がまぶしく、また頼もしく感じられた授業でした。

(法学部教授 樋口徹)



懸命に作業をする学生

柵作り作業

2 学内農地の農産物体験

春に続き、秋も農産物体験を行いました。受講生は6人と少なめでしたが、春期に担当された先生が感心するくらい熱心に農作業を楽しみました。農作業では、春のプロジェクトで植えたサツマイモの収穫、除草、耕起、畝立て、そしてジャガイモなど数種類の野菜の植付けをしました。サツマイモの美味しかったこと残念なことに天候に恵まれず、1週中休みを入れ、後へずらして農作業を行いました。しかし、雨天のある週は、教室で有機栽培や食の安全安心について考え、自らの食生活を見直し、プロジェクトの学びの意義を深めることができました。また「地域の食材を知る」のグループと一緒に、市内の食品製造業の工場見学、ソーセージ作りを体験したことも食について考える良い機会となりました。

(経済学部准教授 岸野澄子)



サツマイモの収穫



野菜の植付けと水まき

3 地域の食材を知る

「地域の食材を知る」では、10名の学生とともに南知多のハーブ園ホリスティックファームを訪れ、土壌と作物の関係を学び、ハーブを味わい、畑の雑草を取り、ルッコラ、イタリアンパセリの苗を植え付けました。

犬山市内の「無添加ハムのサイトウ」では工場見学後、パセリ入りソーセージ作り挑戦しました。肉をこね、腸詰めし、成形したソーセージをゆでて、試食もしました。

また、授業では犬山名物「ゲンコツ飴」3種、小牧にある松永製菓の「しるこサンド」4種、ペットボトルのご当地緑茶3種を試し、違いを比較しました。

最後のレポート発表では、「信州味噌」「名古屋コーチン」などの地域食材、ハーブの歴史・効能、砂糖の種類・生産法などが報告され、それぞれに「発見」があったことがよくわかりました。(経営学部教授 近藤利恵)



「無添加ハムのサイトウ」工場見学

ソーセージの腸詰め挑戦

4 安全マップ作りのための児童との町歩き

1回目は、横平先生の話の後、過去の地域安全マップ作りの説明が学生によるTA(ティーチングアシスタント)からあり、児童の安全に関するDVDを鑑賞しました。2回目はNPO

「DoChubu」から、タウンウォッチングや防災マップ作成マニュアルの話聞き、3・4回目は、小牧小学校3年生の下校時に同行し、校区を歩きました。5回目は調査結果を整理し、6回目は調査結果をマップ上に登録。また、7回目は授業の全行程を振り返りました。

学生たちは、NPOの人たちの目の付け所の鋭さに感動し、大学内外の人と関わることを楽しんでいたようです。

(経済学部教授 大野隆)



小学生と一緒にタウンウォッチング



調査結果をマップに登録

5 囲碁に学ぶかけひき(戦略)

囲碁はシンプルなゲームですが、かえって初心者には感じづかみにくく、手ほどきが必要です。最初は、「どこに打っていいか見当もつかない」と嘆いたり、逆に指導者に対して白石(後手)を持ちたがったりしていた学生も、基本ルールがわかってくると、次第に一手のネライを真剣に考え、二、三手先を懸命に読もうとするようになりました。そして、うるさく言ったわけでもないのに、謙虚に盤をはさんで一礼してから始めていました。授業期間も終わりに近くなり、やっと、石音のしない方に打つ、といった「かけひき」も見えてきたようです。「新しいことを学ぶことに知的な刺激を感じた」という感想に、教員として、学生とたくさん会話しながら丁寧に試合の相手をした甲斐があったと思いました。(経営学部教授 横山光伯)



「かけひき」をていねいに手ほどき



真剣勝負

6 男子学生による料理体験

今回の料理体験は、杉山由佳先生、山本秀美先生、日比野光敏先生をお迎えし、講義と実習を繰り返すことで、「料理の奥深さ」と「料理の楽しさ」を7週にわたって学びました。

受講者は13人で、全員が男子学生。事前アンケートの結果、料理の経験者は5人のみだったため、少々不安なスタートでした。しかし、杉山先生からマフィンとシフォンケーキを、山本先生からハーブをたっぷり使ったサラダとピラフ、鶏肉のソテーを、日比野先生から巻き寿司の作り方を教えていただくうちに、包丁の使い方や盛り付け方がどんどん上達し、最初の不安は杞憂に終わりました。

自ら行動する「体験型プロジェクト」を通し、「考える→仲間の意見を取り入れ考えを修正する→協力して実行する」という、社会生活で最も重要なことを学ぶ体験ができたと思います。

(法学部准教授 永沼淳子)



リンゴの皮むき初挑戦



「すしの文化史」日比野先生の講義



「木曾川うかい」出前教室

「木曾川うかい」がいちむら幼稚園に出現

11月5日(火)、いちむら幼稚園の園庭に「木曾川うかい」の特別トラックが到着。園児と教職員、保護者、そして教育実習中の保育科の学生が見守る中、「木曾川うかい」出前教室は、幼稚園父母の会が「地域の伝統文化にふれ、地域の特色を理解し、地域を誇りに思う気持ちを育てる」ことをねらいとして、犬山市観光協会の協力を得て実現しました。

お天気にも恵まれ、水槽を泳ぐ魚たちも元気いっぱい。犬山観光特使見習いのサムタイムズが司会進行を担当。木曾川うかい初の女性鵜匠 稲山琴美さんとともに「うかいクイズ」を盛り上げました。



お笑い芸人サムタイムズの登場に大喜び

「鵜はカラス?それともペリカンの仲間?」

鵜と鵜匠の衣装についての説明を終え、いよいよ本番! 琴美さんの合図で鵜が一斉にダイビング。つぎつぎに魚を飲み込む素早い動きに園児たちは大興奮。次に「鵜はどれくらいの魚を飲み込むことができるのかな?」を実証。1匹、2匹とノドから出てくる魚を数える琴美さん。みごとな鵜飼実演に大きな拍手がおこり「鵜飼出前教室」は大成功。



何匹飲み込めるかなあ?



わん丸君の登場



「わん丸君音頭」で元気いっぱい

最後のステージには、犬山市の公式キャラクターわん丸君が登場。この日お誕生日のお友達に、わん丸君から「ちょんまげにタッチ!」でお祝いのプレゼント。そしてみんなで「わん丸君音頭」を元気いっぱいに歌い、踊り終ると記念のクラス写真を撮り、わん丸君とのスキンシップを楽しみました。

(いちむら幼稚園園長 鈴木文雄)

地域のボランティアとコラボ

サツマイモとクリスマスケーキに大喜び

臨床栄養センターと地域のボランティアの方々のコラボで園内に畑を作り、いろいろな作物を育て始めました。夏にはスイカが実り、給食のデザートとしておいしくいただきました。秋にはサツマイモが順調に育ち、イモ掘りを体験。園児たちは初めて体験するイモ掘りに大興奮し、大きなイモがいっぱい採れて大喜び。収穫したサツマイモは、早川先生たちが「大学イモ」にしてくださいました。園児たちは自分たちで汗を流して収穫したサツマイモをおいしく食べることができ、大満足でした。今年は、苗植えからサツマイモ作りに挑戦する予定です。また、臨床栄養センターとのコラボで、アレルギーの園児も食べることができる「アレルギー対応クリスマスケーキ」の提供もあり、園児たちは笑顔いっぱいでした。



サツマイモ掘りに夢中



ケーキの登場に笑顔いっぱい

サッカー教室

ちびっ子サッカー選手たちが元気にプレイ

子どもたちにいろいろな体験をさせたいという思いから、「サッカー教室」を昨年6月から毎月実施しています。講師は、名経大サッカー部の阿部監督と白井コーチです。園児たちは、人工芝のサッカー場で思いっきり走って転げ回ったり、楽しくボールを蹴ったりして、大はしゃぎしています。コーチたちが、お手本を示しながらいねいに教えてくれるので、園児たちは時間が経つのも忘れて熱心に練習します。毎回元気にプレイするわが子の姿を楽しみに、見学に訪れる保護者の方々もたくさんいらっしゃいます。男の子も女の子も、サッカー教室が大好き。「将来サッカー選手になりたい!」と言う子がたくさん増えてきました。



ドリブルも上手になったよ!



力強い「シュート」

大学連携市民講座

小牧市教育委員会 生涯学習課「こまなびサロン」& 名古屋経済大学 臨床栄養センター

11月29日(金)、12月5日(木)に「地元大学で学校給食を作ってみよう!」をテーマに、臨床栄養センター主催で小牧市民を対象とした生涯学習を行いました。第1回目は、「家庭でできる衛生管理を取り入れた調理実習」を上延講師が担当し、徹底した衛生管理のもとで食の安全を心がけている学校給食の実際と食中毒の原因や注意点について講義を行いました。また食中毒は家庭でも起こり得るため、包丁やまな板の洗浄・消毒、食品の適切な温度管理、調理手順など、家庭でできる食中毒予防を学びながら調理実習を行いました。



ニンジンのごしらえ



男性受講者も真剣



給食ででき上がり

第2回目は「食物アレルギーに対応した代替食の調理実習」を早川准教授

が担当しました。食物アレルギー患児に対する食の安心安全および健やかな成長を守りつつ、可能な限り楽しい学校生活が送れるように、給食の工夫や誤配膳予防、事故が発生した時の対応などについて講義を行いました。また調理実習を通して、食物アレルギー食に対する調理上の工夫や注意点の実際について理解を深めました。

さらに、いちむら幼稚園児を対象とした給食経営管理論実習の授業見学も実施しました。生涯学習に参加した皆さんからは、充実した楽しい2日間だったとの感想が寄せられ、大変盛況のもとに終了することができました。「今後も継続して欲しい」というご希望も多々ありました。(人間生活科学部准教授 早川麻理子)

犬山お城まつり

「犬山秋のたっぷり弁当2013」を販売

私たち管理栄養学科の季ゼミは、10月27日(日)に行われた「第13回秋の犬山お城まつり」に出店し、「おれんじや」とのコラボで「犬山秋のたっぷり弁当2013」を販売しました。当日はお天気もよく、絶好のお祭り日和。1年生は呼び込みをしながら場を盛り上げ、2年生はお弁当の盛りつけとポスターをデザイン。4年生の先輩は、今までの経験を生かしてアドバイスを行うなど、学年ごとに決めておいたそれぞれの役割を果たしました。

また、販売には他学部の学生をはじめ、経済学部の特別研究室地域社会研究チームの方々も参加してくださいました。その時、メンバー全員の心が一つになった一体感を肌で感じることができ、嬉しかったです。私たち2年生が提案したメニューを商品化していただいた「おれんじや」さんには、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。そして、「学生さんたち、よく頑張っているね!」「元気いっぱいだね!」といったお客様からの言葉が何よりの励みになりました。私たちもお客様も笑顔いっぱいの1日になりました。

人間生活科学部 管理栄養学科2年 徳丸舞さん 誠信高等学校(愛知県) 出身



お弁当の盛りつけ



みんなで販売の準備



「お弁当いかがですか?」

可愛い最後のお客様



完売を祝して「ハイポーズ」

名古屋市消費生活フェア2013

自信をつけて臨んだ名古屋市消費生活フェア

11月2日(土)3日(日)、名古屋市のオアシス21で「名古屋市消費生活フェア☆2013」が開催されました。11月2日(土)に、経済学部の特別研究室地域社会研究チーム、岸野ゼミ(3年)、カフェメレンゲが参加しました。

今回のテーマは「学生と考える「くらしと流通」」です。昨年は「食と農」に関するテーマで出展しましたが、今回は昨年の内容に加えて大学周辺地域にある「朝市」(2ヶ所)の調査をし、その内容をまとめて出展しました。夏休み前にテーマを決定し、夏休み中に調査を実施。アンケートの作成・実施・結果の整理など、かなり大変でした。その結果をブースに来場してくださった方々に説明しました。初めて参加した学生は大変そうでしたが、何回も説明するうちに慣れてきたのか、説明する姿も次第に板についてきました。

来場者は2日間で42,000人でした。本学のブースへの来場者の年齢層もさまざまでした。日頃の取り組みを発表することができ、参加した学生の皆さんにとっても、いい経験になったようです。

(経済学部講師 田村善弘)



にこやかに他大学生と交流



インタビューにも自信を持って応対

Relay Essay 023 リレーエッセイ

60歳からの手習い

経済学部教授 木村隆夫

この忙しい時に、のんびり「エッセイ」なんか書いてられるか、とも思いましたが、他でもない近藤先生からの依頼なので、どうでもいい話を一つ。

7年前に「民謡川崎会」に入り、民謡と端唄を習っています。ここ1年ほどは、三味線の練習もしています。歌は大学時代に男声合唱の経験がありますが、楽器は生まれて初めてなので悪戦苦闘の連続です。家元からは「筋がいい」とほめられますが、もちろん弟子に対する常套句(ほめておだてる)。初めて見る楽譜を難なく弾いてしまう諸先輩の隣で、一人固まっています。

さて、まだまだ民謡初心者ですが、これまで福祉施設の慰問に連れていってもらった機会が何度かありました。そして今年、4人の若手グループで名古屋市内の小規模デイケア施設を訪問しました。高齢化の進む民謡会派では、還暦を過ぎた私ですらいつまでも若手です。おそろいの着物を着て、20分ほどの演奏。初めてのことで演奏は正直おそまつでした。それでも反応は良く、喜んでくれたようでホッとしましたが、あとで実は皆さん認知症と聞いてびっくり。そんな風には全然見えなかった。しっかり唄い手を見つめているし、表情も生き生きしているし、手拍子も自然に出るし、一緒に唄ってくれる人もいました。とくに東海林太郎の「野崎参り」(若い人は

知らないだろうなあ)を聴いて、涙を浮かべる人が何人かいました。職員の人も驚いたようです。若い時によく聴いた唄によって、その頃のいろいろな記憶や思いが呼びさまされ、感情があふれ出たのかもしれない。音楽療法について、そういうものがあることは知っていましたが、その可能性を体験したのは初めてでした。美女3人との4人グループによる慰問はこれ



からも続けるつもりです。
なんだお前、忙しいと言ってるわりには余裕あるじゃないか、と突っ込まれそうですが、そういう楽しみもないと人生やっつけられません。

Profile

きむらたかお
経済学部長。専門は、労働経済論と社会保障論。
民謡川崎会名取(芸名:川崎瀧隆)

次回は、経営学部講師 野方大輔先生です

英語教育センター 学内講演会

日本企業のグローバル化とTOEIC®テスト

10月7日(月)、本学犬山キャンパス7F1教室において、英語教育センター主催による講演会「日本企業のグローバル化とTOEIC®テスト」が開催されました。講師には、一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会の高木真悟氏をお招きし、グローバル社会における英語のより一層の重要性について、多くのデータや映像を用いてわかりやすくお話しいただきました。一般市民の方々を含む約120名の聴衆には、講演の後、TOEICのサンプルテストにも取り組んでいただきました。最後の質問コーナーでは、リスニング力をつけるためのコツとして、洋画の英語字幕の活用などを教わりました。

なお、本学における本年度のTOEIC IPテストは12月7日(土)、犬山キャンパスで行われ、無事終了しました。

(英語教育センター長 法学部教授 川津雅江)



講演者 高木真悟氏



TOEICプログラムの解説

企業法制研究所 公開講演会

企業法の現代的課題

11月21日(木)、企業法制研究所主催の公開講演会が本学7F2講義室にて開催されました。今回で23回目を迎えた本講演会は、「企業法の現代的課題」を基本テーマに掲げ、これまでの企業向けの講演会から方針を転換し、本学学生を対象に広く参加を募りました。これに一般の参加者を加えて、当日は170名を上回る方々に聴講していただきました。

講師には、株式会社電通の東京本社法務マネージメント局中部支社駐在の宮谷英樹氏をお迎えし、「「広告」に関する法規制の現在(いま)——一つ

のテレビCMができるまで——」を演題とし、講演していただきました。日々目にするテレビCMなどの、さまざまな「広告」が世の中に出るまでにどのような過程を経て作られているのか。また、「広告」制作上のさまざまな法規制について、リーディング・ケースとなった判例を取り上げ、広告や企業のキャンペーンに関する法規制の現在(いま)をわかりやすく解説していただきました。興味深い内容に、参加者の皆さんは熱心に耳を傾けていました。(企業法制研究所長 法学部教授 高橋利治)



満席の講演会



講演者 宮谷英樹氏

就職内定者

自分の考え方をはっきりさせる

私は就職活動をするにあたって、まず人の話をしっかり聞いて自分で理解することを気をつけようと思いました。言われたことを正確に把握しておかなければ、自分が言いたいこと、わかってもらいたいことを疎かにしてしまいそうだったからです。そのため、キャリアセンターの方々の話をしっかり聞き、「自分を表現するにはどうしたらいいか」ということを考えました。次に、1つ聞いたらそれに対する答えや考えを必ず1つ出すように気をつけました。企業面接では、自分を表現することが何よりも重要であり、そのためには自分の考え方をはっきりさせることが必要です。皆さんも、そのことに気をつけて就職活動をスタートさせるといいと思います。

● **ビルトマテリアル株式会社**
経済学部4年 葉田展佳さん
金光学園高等学校(岡山県)出身



気になった園を積極的に訪問

今、就職活動を振り返ってみると、「あっという間」でした。私が就職活動に動き始めたのは、夏休み前です。まず幼稚園や保育園の説明会に参加して、多くの園の情報を知ることから始め、その後、気になる園を訪問しました。また、キャリアセンターに何度も通い、さまざまな園からの求人を見て検討しました。幼稚園や保育園の求人が出るのは、企業よりも遅くて6~7月頃ですが、早くから動き、多くの園を知ることはいいいことだと思います。私は夏休み中に就職を決めることができました。自分の気になった園があれば、いくつでもいいので訪問し、その園の特徴を知ることが大切だと思います。どうぞ後輩の皆さんも就職活動頑張ってください。

● **社会福祉法人七宝福祉会 七宝こども園**
人間生活科学部 教育保育学科4年 松居亜沙美さん
名古屋経済大学市邨高等学校(愛知県)出身



面接では「会社が何を求めているか」が大切

面接で大切なのは、「会社が何を求めているか」を知ること。どんなに素晴らしい意見でも、会社に合わなければ採用されることは少ないからです。「会社が何を求めているか」を見極めるには、説明会で話をしっかり聞くことが大事だと思います。そして質問をたくさんすることです。質問をすることにより、相手の会社の方から直接意見を聞くことができ、その意見から「会社の雰囲気」「欲しい人材」など、さまざまなことがわかります。これは面接でも同じで、必ず最後に「何か質問はありますか?」と訊かれます。その時、必ず質問をしましょう!面接が0点でも形勢が逆転するケースがあるからです。自己PRに失敗したとしても、1つや2つ答えるのに失敗したとしても、他に点数が取れていれば面接を通過できます。私のアドバイスが皆さんの力になれば嬉しいです。

● **株式会社ファッションヤマグチ**
経営学部4年 古川雄大さん
愛知県立一宮北高等学校出身

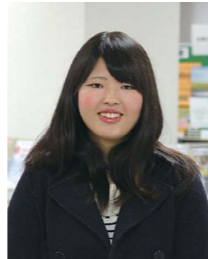


ありがたかった、先輩や友人からのアドバイス

私は管理栄養士になるために、4年間学んできました。就職活動を始めた時は、自分自身がどんな栄養士になりたいのかわからず、大変悩んでいました。3年生の時に臨地実習に行き、病院や特別施設で実習を行いました。この仕事が自分に向いているのかははっきりしなかったからです。そんな時、先輩や友人などに相談して話を聞いてもらい、アドバイスをもらうことで自分では気づかなかった部分が見え、自分のやりたいことが少しずつ明白になってきました。

もし私のように悩んでいる人がいたら、1人で悩まず周囲の人たちから情報をもらい、アドバイスをしてもらうといいと思います。きっと失敗せずに自分のやりたい仕事にめぐり会えるはずですよ。頑張ってください。

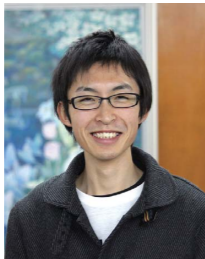
● **株式会社クスリのアオキ**
人間生活科学部 管理栄養学科4年 伊藤由美さん
名古屋大谷高等学校(愛知県)出身



余裕を持って「就職活動を楽しむ」

私は、就職活動で何も特別なことはしていません。他の人と同じことを、同じように行ってきました。ただ1つ、気をつけていたことは、「就職活動を楽しむ」という余裕を持って行動したこと。緊張や焦りがあると、本来持っている自分の良さを出すことができないばかりか、予想外の出来事に対応できなくなってしまう。面接の準備はできていても、本番では何を訊かれるかはわかりません。そんな場面でも落ち着いてはつきりと受け答えができる人を企業は求めていると、私は思います。これから就職活動を始める人も、こういう機会は一生に幾度もないことです。楽しむくらいの余裕を持って、頑張ってください。

● **愛知県警察本部**
法学部4年 松原淳貴さん
愛知県立春日井西高等学校出身



学内合同企業展

■ 日 時：平成26年
2月3日(月)・4日(火)
13:00~15:00

■ 場 所：プラザII

■ 企業数：両日合わせて120社

毎年多くの在学生が内定を獲得しています。積極的に参加してチャンスを広げましょう。

■ お問い合わせ：キャリアセンター(7号館3階)
TEL 0568-67-7254

就職活動を通して、目標が明確になりました

私が就職活動を本格的に意識したのは、私立幼稚園の合同説明会です。さまざまな幼稚園から説明を聞き、どのような園で働きたいかを考え、気になった園を訪問しました。私が行きたいと思った園は、子どものことを第一に考え、先生方の仲もよく、いきいきとしている園です。その条件に当てはまり、「いいな」と思った園の試験を次々に受けました。試験に落ち、「どこが悪いのだろう」と落ち込んだ時もありましたが、「小田さんなら大丈夫!」と励ましてくれる友人や試験前日にメールや電話で勇気づけていただいたゼミの先生のおかげで、乗り越えることができました。また、就職活動を通して自分の長所や弱点を改めて知ることができ、現場に立った時の目標がより明確になり、とてもいい経験になりました。

● **学校法人栄光学園 鳴海ヶ丘幼稚園**
短期大学部 保育科2年 小田世理奈さん
名古屋経済大学高蔵高等学校(愛知県)出身



インターンシップ

犬山商工会議所

心に残ったプレミアム商品券の販売

私は、犬山商工会議所でインターンシップ体験をさせていただきました。商工会議所ではどんな仕事をしているのか、最初は漠然としかわかりませんでした。しかし、説明を聞き、仕事風景を見て、どういう所なのかを知ることができました。体験の中で、心に残っていることがあります。それは、消費の拡大、購買の促進を目的とした「犬山プレミアム商品券」の販売と誘導の手伝いをさせていただいたことです。実際に、商品券が売れていく様子を見て、犬山の企業と消費者をWIN-WINの関係で結びつける仕事は素晴らしいと思い、地域とのつながりを肌で感じる事ができました。今後は、この体験を自分の進路に生かしていきたいと思っています。

経済学部3年 小出崇寛さん 長野県長野吉田高等学校出身



春日井市野外教育センター

「働くことの大変さ」を知った10日間

私は、今回のインターンシップで「働くことの大変さ」を知りました。青少年自然の家では、お客様が利用する施設の掃除や子供たちの工作の手伝いがメインでした。マットや毛布を干し、テントを片づけるといった暑い野外での仕事が多く、精神的にも身体的にも大変だと思いました。しかも、その仕事を毎日続けるのは、すごいことだと思いました。一番印象に残っているのは、スタッフの人たちの親切さです。作業のコツや要領を教えていただき、日本の文化を学びました。10日間という短い期間でしたが、毎日仕事をする大変さを改めて知ることができました。

1年後は、私も就職します。その前に、今回の体験ができてよかったと思います。

経営学部3年 張雯雯さん 中国浙江省乐清市第三中学校出身



得るものが大きかった就職活動

私は「人と関わることができ、自分を生かせる仕事がいい」と思い、旅行会社や鉄道会社、プライダル会社を中心に選考を受けていました。さまざまな企業の話聞き、知ることで、「こういう仕事をしているんだ、こういう仕組みなんだ」と、知識がつかまりました。各企業の違いを知ること、自分の本当にしたいことが見えてきたような気がします。就職活動は大変でしたが、それ以上に得るものがありました。このような機会はなかなかないので、後輩の人たちも就職活動に熱心に取り組んでもらいたいと思います。犬山市のPRのお仕事やアルバイトで学んだことを、この春から就職先で生かしていきたいと思っています。

● **株式会社ジェイアール東海バスセンター**
短期大学部 キャリアデザイン学科2年
浦崎真由美さん 岐阜県立各務原高等学校出身



犬山学生観光大使としてわん丸君と

伊勢山会計合同事務所

社会人としての責任と仕事の厳しさを実感

私は、インターンシップ先となった伊勢山会計合同事務所で2週間働かせていただきました。会計事務所は、お客様の個人情報を変更・修正するという重要な仕事が多く、私が受け持った仕事も同様だったため、責任の重さを感じながら仕事に取り組みました。ミスをして職場の方から注意され、落ち込むこともありましたが、注意を受けた部分に気をつけることで、最後はほめていただくことができました。今回のインターンシップで、社会人としての責任や仕事の厳しさ、職場でのコミュニケーションの大切さを学びました。この学びを、就職した後もぜひ生かしていきたいと思っています。

法学部3年 辻甫之さん 名古屋経済大学市邨高等学校(愛知県)出身



サンレジャン株式会社

お客様の喜びが、従業員のやる気につながる

私は、カーテンの専門店「サンレジャン」で接客を行いました。スーパーでアルバイトの経験はあったものの、今回の実習ではカーテンのサイズ、柄などを決めなければならないため、一人のお客様に対する接客時間が長く、いろいろなことを学ぶことができました。お客様の求めるものを正確に把握した上で部屋に合った商品を選んでお渡しするので、この仕事はいかにお客様に喜んでいただけるかがとても重要です。お客様に喜んでいただければ、必ず次のお客様につながります。そして、その喜びは従業員の喜びとなり、やる気となります。また、接客業はお客様の反応が目に見えてわかるので、お客様に近い、とてもやりがいがある仕事だと思いました。

経営学部3年 筒井俊江さん 愛知県立小牧高等学校出身



第2回名古屋地区震災ボランティア 学生交流会

他大学生との交流が刺激に

12月1日(日)、名古屋学院大学にて行われた「第2回名古屋地区震災ボランティア学生交流会」に7名の学生が参加しました。本学の活動紹介では、管理栄養学科1年の安田記子さんが「共生社会の探究と布草履プロジェクト」について、経済学部2年の児島明伸さんが経済学部の特別研究室地域社会研究チームが取り組んでいる「犬山西地区防災備蓄品マップ」について情報発信しました。

それに続く1時間のグループワークでは、9大学から集まった50人の学生が5つのグループに分かれ、「震災を忘れず情報発信するための学生提案のイベント」をテーマに熱気こもった話し合いをし、企画案を出しました。他大学の学生との分かち合いは、学生たちにとって新たな活動への一歩となったようです。

(経済学部講師 水野有香)



「紹介ボード」の準備

他大学の学生との交流

VOICE 人を幸せにできる「人間力」を培いたい

学生交流会には、愛知・岐阜の10大学から約60名の学生が参加しました。ワークショップを通じて「震災から2年半以上経過した今、浮かび上がる問題」に対して学生がそれぞれ意見を出し、「学生が行うことのできる対処法」を東北の大学生たちと共に考え、思いを共有しました。

この交流会で「志」を持つ学生や教員と交流することは、改めて素晴らしいと感じました。なぜなら、そういう人たちは自然と私の思いや考えを明確に

してくれるからです。まさに人生とは学びであり、理想と現実のギャップに泣き、そして成長していくものなのだと思えます。この社会で生き、人を幸せにできるような「人間力」を培っていきたくです。

人間生活科学部 教育保育学科3年 佐藤健太郎さん
三重県立四日市工業高等学校出身



いちむらっこまつり

全員が感じた、「わくわく」感

「いちむらっこまつり」が始まって、遊戯室の幕の隙間から顔をのぞかせた絵本の主人公マックス。その瞬間、子どもたちが体全体で表現した「わくわく」感は、遊戯室にいた大人全員に伝わったことでしょう。前日に幼稚園の各クラスへ届けた「マックスからのお手紙」が、よい仕掛けとなりました。劇の後、元気に「えいえいおー！」と本気になって冒険に出かけていく子どもたちの姿に、学生の皆さんは「子どもたちが期待感を持って活動できるように働きかけることがいかに大切か」、感じてもらえたのではないかと思います。

今年は、例年ないドラマチックで大がかりな企画となったため、私たち教員は、文字通り当日までドキドキハラハラ冒険をしている気分でした。

ちなみに、「いちむらっこまつり」とは、2年生科目「教職実践演習」の一環で行っている2年生が企画運営する行事です。

(短期大学部 保育科准教授 関谷みのぶ)



「ライオンみつけた」

冒険のはじまり
合い言葉は「えいえいおー！」

幼稚園に届いた
「マックスからのお手紙」

VOICE 2年間の学びの集大成になった「いちむらっこまつり」

12月6日(金)、附属幼稚園で「いちむらっこまつり」を行いました。テーマは「わくわくたのしく冒険隊」。当日は、有名な絵本「かいじゅうたちのいるところ」をアレンジした人間劇を行い、その後、子どもたち一人ひとりが絵本の世界の主人公となって冒険に出かけました。冒険の合い言葉は「えいえいおー！」。子どもたちは、この合い言葉と仲間の印として渡されたワッペンを胸につけ、絵本の世界を再現した迷路や動物の住む森の世界などのコーナーを回って楽しみました。普段とは違う園内の光景に子どもたちは目を輝かせ、笑顔を

見せてくれました。仲間とひとつの大きな企画をつくることは大変でしたが、2年間の学びの集大成として、とてもよい経験を積むことができたと思います。

短期大学部 保育科2年 いちむらっこまつり実行委員
植木穂乃香さん 桜花学園高等学校(愛知県)出身
近藤結女さん 名古屋経済大学市邨高等学校(愛知県)出身
佐藤翼さん 名古屋経済大学高蔵高等学校(愛知県)出身



進行役の植木さん

強化指定クラブ

剣道部 全日本大会出場を目標に頑張っています

昨年4月に男子9名、女子4名が入部し、平成25年度剣道部が新たにスタートしました。来年度の目標は、本年度と同じく男子・女子ともに全日本大会に出場すること。新主将の瀬戸口貴裕(男子)、近藤風花(女子)を中心に、確かなチームワークで頑張っています。

- 成績報告
第60回東海学生剣道選手権大会(個人)出場 男子9名、女子5名
第58回西日本学生剣道大会(団体)男子3回戦ベスト16、女子2回戦
第56回東海学生剣道新人戦(団体)男子7人制ベスト8、5人制優勝(団体)女子優勝
第36回東海女子学生剣道優勝大会 ベスト8、決勝戦勝利
第60回東海学生剣道優勝大会 3位入賞
第61回全日本学生剣道優勝大会 出場
第32回全日本女子学生剣道優勝大会 出場
- NHK連続テレビ小説「ごちそうさん」に出演!



男子バスケットボール部 来シーズンはインカレを目指します

今シーズンはベスト4に入ることができましたが、惜しくもインターカレッジに出場することはできませんでした。来シーズンは新1年も含めた新チームとして毎日の練習に全力を尽くし、全国大会出場への切符をつかみたいと思います。

- 成績報告
第84回東海学生バスケットボールリーグ戦 愛知リーグ2位通過
第84回東海バスケットボールリーグ戦 エイトリーグ 出場決定戦 下部最終順位3位(抽選により決定)
第84回東海学生バスケットボールリーグ戦 エイトリーグ 1次リーグ4位通過、2次リーグ4位通過
- 最終成績 東海学生バスケットボールリーグ戦 4位



硬式野球部 1部昇格という目標に向かって

秋季リーグは、2勝8敗と負け越してしまい、2部残留が決まりました。最近、3季連続で1部と2部の入れ替えがあり、番狂わせが多くなっています。硬式野球部の選手も新チームに変わり、来シーズンの1部昇格という目標に向かって練習に励んでいるところです。来シーズンは2年生中心のチームですが、目標に向けしっかりと練習をすれば、目標が達成できると思っています。



サッカー部 来シーズンこそは、東海リーグ昇格へ

サッカー部が強化指定クラブとなり、1年が経ちました。2013年の成績は、愛知県1部リーグで10チーム中4位という成績でした。この成績は、個人の実力以前に自分たちの日頃のサッカーに対する姿勢の甘さや、ピッチ外の生活での意識の緩さが、まさにそのまま現れた結果であると思います。来年度は、同じ失敗を繰り返さないように、これをただの歴史の1ページ目にするのではなく、ここからもう一度自分たちを見つめ直し、さらに上の東海リーグ昇格を決めに行きたいと思っています。

1年間応援していただき、ありがとうございました。来シーズンもよろしくお願いします。



ラグビー部 来シーズンこそ、1部リーグ昇格へ

ラグビー部は、東海学生リーグに所属しています。今シーズンのリーグ戦(公式戦)は、11月に終了しました。結果は、2部リーグで2位に入賞。その後、1部リーグとの入替リーグに進みましたが、残念ながら敗退し、2部リーグ残留となりました。リーグ戦終了後、早速、新チームで活動を始めています。来シーズンこそ、念願の1部リーグ昇格を果たせるよう、日々の練習に取り組んでいきたいと思っています。



活躍する卒業生

捨てきれなかった夢をかなえるため
四年制大学を卒業後、名経短期大学部に入学し、保育士に!

四年制大学の工学部を卒業後、一時就職もしましたが「保育士になりたい」という夢をかなえるために名経短期大学部の保育科に進学することを決めました。入学して印象的だったのは、先生方がとても親身になって指導して下さること。そして、敷地内に幼稚園があるため、実践的な授業が受けられることでした。絵本の読み聞かせや手遊びなど、とにかく経験することすべてが新鮮で、楽しく学ぶことができた2年間でした。

現在は、春日井市内の公立保育園に保育士として勤務し、12人の2歳児を受け持っています。大切な子どもたちを預かるだけに責任も大きいのですが、子どもたちが成長するのを見ることができるととても新鮮で楽しいですね。毎日、子どもたちにいろんな遊びをさせてあげたいと張り切っています。また、保育科時代は保育実習や幼稚園教育実習もあったのですが、今その体験がとても役に立っています。新しい友人もたくさんでき、保育科に入学して後悔したことは一度もありません。これから入学する人にアドバイスしたいのは、楽しんでいろんなことにチャレンジしてほしいということ。大変と思うより、楽しむことによって、きっと充実した大学生活が送れると思います。



お話しのはじまりはじまり



プールで水遊び

絵本の読み聞かせ

2012年3月 短期大学部保育科卒
稲垣 雄也 さん

Profile

いながき ゆうや
2009年3月愛知工業大学工学部電気学科卒業後、数島製パン(株)入社。その後、保育士を目指し、名古屋経済大学短期大学部保育科に入学。卒業後、春日井市公務員試験を受験し合格。現在、春日井市内の保育園に保育士として勤務。

高大連携

犬山南高校生のためのオープンキャンパス「まるごと大学ワーク」

愛知県立犬山南高校の全校生徒が名経で講義を体験する高大連携事業も、今回で4年目になります。6月の3年生に続き、11月12日(火)、19日(火)の2日間、1・2年生が「まるごと大学ワーク」に参加しました。

12日は、1年生が佐々木学長によるミニ講義「大学で何を、どう学ぶか」を受講。その後、それぞれが希望する講義を受け、終了後は図書館へ移動して講義レポートをまとめ

ました。19日は、2年生が佐分副学長によるミニ講義「大学で何を学ぶか」を受講。その後、主体的な学びを体験するためにスタートした「体験型プロジェクト」から、「企業と共に考える! 若者とクルマと今」や「安全マップ作りのための児童との町歩き」「料理体験」といった講義を受講しました。

2日間で11種類もの講座が用意され、大学の新たな取り組みを知り、有意義な時間が過ごせました。生徒たちは一足早い大学生気分を体感し、新たな発見ができたことと思います。

(愛知県立犬山南高等学校 木和田晋弘教頭)



法学部の講義を聴講



園児とお遊戯でふれあい

～市邨校～

ICT教育に取り組んでいます

今の生徒たちは、物心ついた頃にはインターネットが普及し、情報端末が身近に存在する環境の中で育っています。学校もそうした生徒の生育環境や、時代の変化に機敏に対応する必要があります。しかし、保守的になりがちな教育現場では、予算的な制約などもあり、ICT(Information and Communication Technology: 情報通信技術)の導入は必ずしも進んでいないのが実情だと思います。

市邨では、よりわかりやすい授業、知的好奇心を刺激して興味関心を高める授業を目指し、ICT教育推進委員会を立ち上げ、今年度から本格的にICT教育の導入に取り組んでいます。

まず、第1弾としてプロジェクターとパソコン、DVDプレイヤーをセットしたカートが9台導入。教室で視覚教材を提示したい場合に、気軽に活用できる態勢ができました。11月14日(木)、15日(金)に開催された、全国高等学校国語教育研究連合会(全国連)の第46回研究大会愛知大会では、本校も会場の一つとなり、市川庸輔先生がプロジェクターカートを活用した授業実践を公開し、参加者の注目を集めました。11月19日(月)の研究授業では、各教科でプロジェクターカートを活用した授業実践が報告され、まだ活用されていない先生方は大いに刺激を受けたようです。

また、第2弾として校内無線LANを整備し、校舎内のあらゆる場所で無線LANが利用できる環境を整えています。この無線LANは名古屋経済大学情報センターの協力をいただいで整備され、生徒用のiPadを40台導入しました。授業でのiPadの活用はこれからですが、11月15日(金)の全国連

研究大会では、川合滝雄先生がグループごとにiPadによる調べ学習を取り入れた授業を公開しました。授業後の研究集会でもiPadを用いた授業実践が話題となり、関心の高さが伺えました。

こうした取り組みはまだ緒に就いたばかりですが、今後の活用の拡大を目指し、12月4日(水)には職員研修を開催して機器の使い方を確認しました。教材の開発や環境の整備など、課題は残されていますが、ICTを活用した授業を拡げていくことをきっかけに「生徒にとってわかりやすい授業」「関心の持てる授業」を構築し、生徒の学習意欲を高め、学力の向上につなげていきたいと考えています。



iPadとプロジェクターカート

研究授業

全国連で公開された授業実践

～高蔵校～

名経第2グラウンドで躍動する球児たち

—高蔵高校野球部—

私たち高蔵高校野球部は、平成21年、9名の同好会で発足し、平成25年12月現在、1・2年生38名で活動しています。平成24年8月には、名古屋経済大学に第2野球場が完成し、そのグラウンドを利用させていただくことで、今までできなかった実戦練習などを数多くこなし、着実に成果を上げています。また、昨年の10月から、移動用のマイクロバスを導入。高校とグラウンドの移動や対外試合の遠征時に活用するなど、練習環境がますます整う中、夏の大会に初勝利し、名古屋市予選も県大会出場まであと一歩です。

現在の恵まれた環境になったのは、多くの方々のご支援、ご協力があったからです。感謝の気持ちを忘れることなく日々精進していきます。

そして、選手一同、「甲子園」を合言葉に頑張りますので、ご指導のほどよろしくお願いたします。(硬式野球部顧問 酒井弘樹教諭)



広大な第2グラウンド



実戦さながらの練習